

# 知識の花弁

三田メディアセンターだより

No.8  
2016秋



撮影：新 良太

## 数で見る 三田メディアセンター

知って良かった ツール & サービス  
図書館用語

コレクションの広場  
野口米次郎関係資料

図書館の舞台ウラ  
あの手この手の資料メンテナンス

貴重書紹介  
「古今和歌集序注」

山中資料センターへの資料移動

主な出来事 (2016.4-2016.9)



慶應義塾図書館

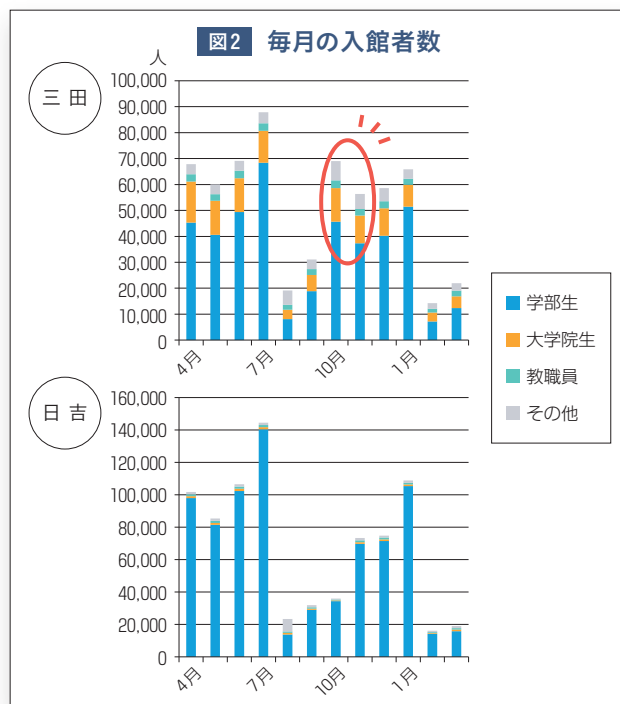
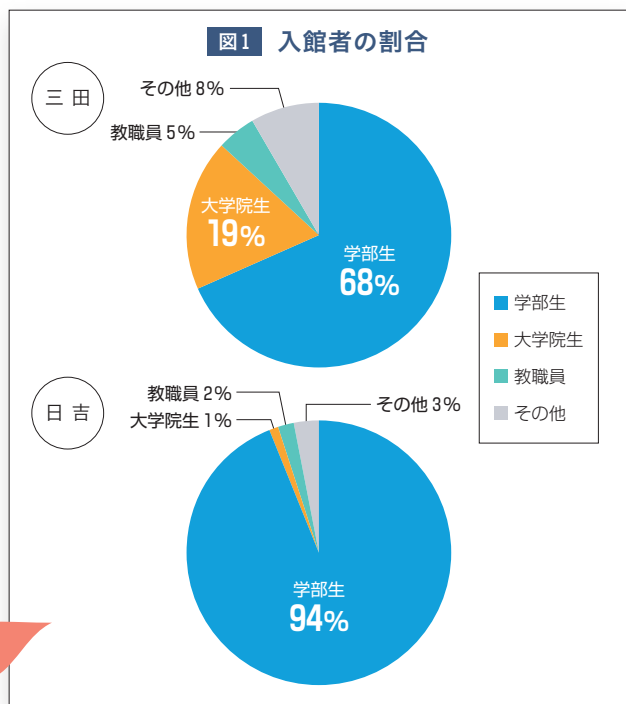
# 数で見る三田メディアセンター

## MITA MEDIA CENTER in numbers

### Q 三田メディアセンターは日吉メディアセンターと比べて落ち着いた雰囲気図書館ですね。入館者数はどのくらいですか？

2015年度の統計では、年間入館者数は約70万人にのぼります。1日あたりに換算すると、約2,500人もの方が利用しています。日吉メディアセンターの年間入館者数約82万人と比較すると少ないのですが、落ち着いた雰囲気は、数の違いというより利用者層の違いが大きく影響しているのではないのでしょうか。入館者の割合を見てみると(図1)、全体の94%を学部生が占める日吉に対して、三田では学部生は68%、大学院生・教職員が全体の24%を占めています。授業の合間を縫って図書館を利用するというより、腰を据えて研究活動を行う利用者が多いのかもしれませんが。当然ながら蔵書構成も大きく異なっています。一般書の多い日吉に対して三田では研究色の強い専門書を取りそろえ、利用者の調査・研究活動をバックアップしています。

年間を通した入館者数の推移を見てみると(図2)、どちらのメディアセンターも学年の開始時期と試験期間を中心に入館者数が多くなっています。しかし、三田では10・11月にもうひと山! これは、11月に開催される三田祭の準備のためです。(通称「三田論」と呼ばれる三田祭論文発表では、各ゼミが論文だけではなく、パネル展示など工夫を凝らした発表も行っています。)この時期は、レファレンスカウンターへの相談件数も増え、データベースなどの電子資源を利用して統計データを収集したり、オリエンテーションエリアや多目的学習室でホワイトボードやPCをフル活用しつつ熱い議論を交わしているゼミ生の姿を多く見かけます。個々に勉強に励む試験前とは違った形で、メディアセンターが活用されているのを実感する時期となっています。



### Q 昨年、一番人気だった展示は何ですか？

「モノがたる文学部 資料にみる人文学研究」(文学部125年記念展)です。2015年12月2日から12月18日の期間に約4,000人、1日平均約270人の入場者がありました。人気の理由は、グーテンベルク聖書が3年半ぶりにお披露目となったからでしょう。500年以上経つ資料ですが、今も印刷文字や色彩が鮮明で美しく、当時から高度な印刷技術があったことを知り大変興味深かったです。そして、長い時を経て慶應にやって来たこの貴重な資料とのご縁に、誰

しもが深い味わいを覚えたのではないのでしょうか。また、本記念展ではグーテンベルク聖書以外にも、国宝「秋草文壺」や重要文化財「相良家文書」、「日吉・矢上古墳出土品」等も出品され、義塾の所有する文化財を一度に見ることができる貴重な機会となりました。展示室では、様々なテーマで年間10回近くの企画展示が開催され、日頃は自由に見ることのできない資料が展示されます。是非ご覧ください。





## 新聞はどのくらいありますか？

三田メディアセンターには、全国紙**5紙**(朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、産経新聞)のほかに、地方紙**9紙**があります。もちろんThe Japan Timesなどの英字新聞や書評紙、経済紙も取り揃えています。

ます。国内の新聞だけでなく、The New York Timesを含め、国外の新聞も**52紙**を受け入れています。新聞の総タイトル数は、**86紙**です。ちなみに、日吉メディアセンターでは61紙を受け入れています。



## 本がたくさんありますね。何冊ありますか？ 購入予算はどのくらいですか？

### 蔵書数

三田メディアセンターの蔵書数はなんと**290万冊以上**にもなります(2015年度末現在2,902,909冊)。さらに日々新しい図書を受け入れているため、その数は増え続けています。和書と洋書の比率はほぼ半々ですが、若干洋書の方が多く、日本語資料だけでなく外国語資料も非常に充実した蔵書構成となっています。また近年では、冊子だけでなく、電子ジャーナルや電子ブックといった電子資料も多く導入しており、先に挙げた蔵書数に加えて、**学術雑誌11万タイトル以上**、**図書34万点以上**が、Web上で読めるようになっています。これらはKOSMOSから検索可能で、多くは慶應IDを用いてご自宅などからも利用することができます。電子資料の導入によって利便性を上げるだけでなく、紙の資料の購入を少し抑えて書架スペースを節約し、より使いやすい配置に変更するなど、資料の充実とともに使いやすい環境作りも目指しています。

### 予算

学部図書予算を除く資料購入費は、**3億3700万円**(2016年度)です。ちょっと気が遠くなってしまいそうな数字ですが、みなさんの研究や学習を支える資料環境を整えるために、非常に多くの予算が使われています。この予算は、図書や雑誌・新聞の購入だけでなく、電子ジャーナルや電子ブック、それから資料を検索するためのデータベースといった電子資料の契約にも使われています。図3は、冊子と電子資料の予算の割合を表したものです。電子資料予算の割合は年々増加しており、2011年度は1/4程度でしたが、2016年度には半分近くとなっています。図4は、2015年度の資料購入費(実績)の割合です。電子ジャーナルやデータベースなどの電子資料が半分近くを占めること、また「雑誌」という括りで見ると、雑誌(紙)よりも電子ジャーナル(電子)の割合が高くなっていることなど、費用面から見て電子化が進んでいることが分かります。

図3 資料購入予算

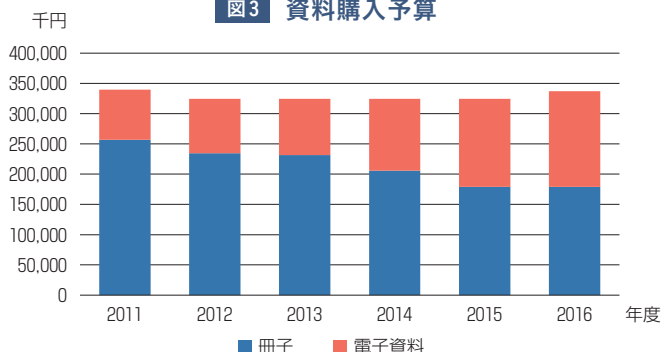
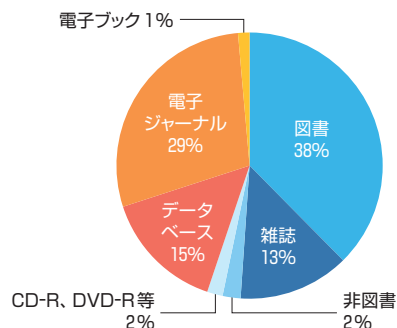


図4 2015年度資料購入費(実績)



## 展示以外で貴重書を見られませんか？

図書館の中で先生が貴重書やアーカイブ資料を見せながら講義をする「貴重書活用授業」をご存知でしょうか。貴重書を使う授業は、今まで文学部の書誌学や日本史など、ごく一部の先生のみぞ知る存在で、申込も年間5件ほどでした。ですが、「図書館の宝物である貴重書をアピールして、もっと学生にもみてほしい」とのスタッフの思いから地道な広報活動を続けたところ、新規申込が増加中です。また20人を超える授業のニーズに応え、開催場所も貴重書室に加え、今年度から図書館1階の多目的学習室でも実施しています。最近では経済学部の原典講読や、法務研究科からの申込に加え、女子高、日吉、遠くはSFCからの要望にも応じました。なお、卒論などに必要な場合は事前に指導教員の捺印をもらい、貴重書活用授業とは関わりなく学部学生が個人で貴重書の閲覧申請をすることも可能です。

### 貴重書活用授業回数/延べ閲覧資料数

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 (4~7月)
授業回数	5回	5回	13回	15回	<b>20回</b>	<b>13回</b>
資料数	17点	23点	47点	点数不明	<b>173点</b>	<b>88点</b>





# 図書館用語

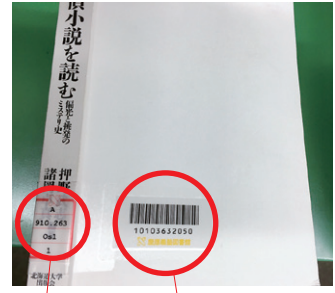
楽しかった夏休みも終わり、秋学期が始まりました。

秋学期は、三田祭での発表や卒論などの研究で、普段よりも図書館を利用する機会がぐっと増える時期です。そこで、今回は三田メディアセンターを利用する上で知っておくと便利な6つの単語をご紹介します。

## 請求記号

請求記号とは、資料の住所のことです。主に資料の背ラベルに書かれています。資料のある場所が書かれていますので、KOSMOSで資料を検索したら、タイトルと共にこの請求記号を書き留めてください。そして、その請求記号を頼りに資料を探してください。ただし、請求記号のない雑誌はタイトルのアルファベット順に配架されています。

請求記号の詳しい見方は、「請求記号別貸出規則 ー資料の貸出期間と取寄せの可否ー」(<http://kosmos-ext.lib.keio.ac.jp/info/callno/mita.html>) をご覧ください。



請求記号 Book-ID

## Book-ID

それぞれの資料につけられている11桁のバーコードの数字のことです。この数字は、資料を特定するために1冊に1つずつつけられており、主に資料の貸出や返却の手続きにこの番号が使われています。

## 大学紀要

各大学が発行する研究論文・報告等を掲載した定期刊行物のことです。よく雑誌と同じ場所に配架されていると思われがちですが、三田メディアセンターでは大学紀要は雑誌とは別に配架されています。みなさんがよく利用する『三田評論』も大学紀要として配架されています。近年では、資料の電子化が進んだことで、ウェブページ（機関リポジトリ）で公開している大学も多くあります。

※KOARA（慶應義塾大学学術情報リポジトリ）  
『法学研究』など多くのタイトルがこのKOARA (<http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/>) で閲覧することができます。



KOARA

## ILL

Interlibrary Loanの略で、図書館間相互貸借という意味です。三田メディアセンターで所蔵していない資料を、国内外（学外）の図書館から取り寄せることができます。また、雑誌記事などは、閲覧したい部分を複写して取り寄せることも可能です。

詳しくは、1階レファレンスカウンターにお問い合わせいただくか、「図書館案内レファレンス」(<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/reference.html>) もしくは「図書館案内一取寄せ (ILL)」(<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/ill/index.html>) をご覧ください。

## リザーブブック

リザーブブックとは、先生が授業の課題等で指定している資料のことです。自由に閲覧・複写することはできませんが、普通の図書と違い、より多くの人に利用していただくために、館外への貸出は行っていません。

## 著作権

すべての「著作物」の作者（著作者）が所有する権利のことです。著作権の保護期間は、個人の著作物の場合は「著作者の死後50年を経過するまで」、団体名義の著作物の場合は「著作物の公表後50年を経過するまで」となっています。また、著作権の中には複製権が含まれていますが、図書館は著作権法第31条によって一部複写が認められています。ですが、複写の際は以下の点に注意してください。

- ・ 図書の複写は、全体の半分未満のみ可能です。
- ・ 雑誌の最新号に掲載された個々の論文全体を複写することはできません。ただし最新号であっても、刊行から相当期間（3か月以上）を経過している場合は論文全体を複写することが可能です。
- ・ 修士論文は公表された著作物ではないため、上記の例外は適用されず、各論文ごとに複写の制限がある場合があります。

※三田で所蔵している学位論文には複写の可否や注意書きが貼ってあるものもあります。その際は、注意書きの文面に従ってください。（複写許諾の取れている論文でも、複写できるのは一人につき1部までです。）

## コレクションの広場

# 野口米次郎関係資料

「英文科の野口先生って、若い頃、異国的な英語で斬新な詩を書く日本人としてアメリカで注目されたんですって。英米の文学者と今でも交流があって、外国で日本文学について講演もしたそうよ。アメリカ人の前の奥様との息子さんは、新進気鋭の彫刻家なんですって。」今の学生に言わせればこんな感じでしょうか。彫刻家の息子とはイサム・ノグチです。

明治から昭和にかけて、慶應義塾大学の英文学教授として40年余り教鞭をとり、国外では詩人・文学者ヨネ・ノグチとして知られる野口米次郎は、1875(明治8)年生まれ。1893(明治26)年18歳を前に単身渡米。多くの英米文学に触れ自らも英詩を書き始めると、サンフランシスコの文人達に注目され詩集『Seen & Unseen』『The Voice of the Valley』を出版。ニューヨークへ移り、英語小説『The American Diary of a Japanese Girl』(1902)を執筆。さらに



憧れのロンドンへ渡り、詩集『From the Eastern Sea』を自費出版。イギリス文壇にも名を知られることとなりました。1904(明治37)年に日本へ帰国した野口は、外国で認められた著名な文化人として迎えられました。

ニューヨーク時代から野口の工作上的パートナーであったレオニー・ギルモアは、野口が帰国した年の末に野口との息子イサムを産出。1907年来日しますが、結局、野口と日本で結婚することはない、イサムもレオニーも1920



(大正9)年までにアメリカへ戻りました。

帰国後の野口は、詩作の他にも文学、芸術に関する評論など、英語と日本語の両方で多くの著作を発表し、長年に渡り日本の文化や芸術を英語で国外へ紹介すると共に、日本へも英米の文学・文化の紹介を続けましたが、戦後間もなく1947(昭和22)年、疎開先でひっそりとこの世を去りました。

同時期に英国留学した夏目漱石や、同時代のラフカディオ・ハーンのように、後の日本人に広く名を知られる存在ではありませんでしたが、明治期に英語で詩作し名を知られた国際的詩人として、また、英語で日本文化や芸術を世界に数多く紹介し、日英両言語で執筆を続けた存在として、この数年、再び日本でも注目されています。

三田メディアセンターのコレクションは、若き日の野口が英語で創作を始めて英米の文学界に注目された時期の、切り抜きや書簡類、原稿等300点を超える原資料です。大半を占める約200点は野口宛ての書簡で、英米文壇著名人からの書簡などが含まれます。書簡だけでなく書評や出版広告、掲載原稿なども貼りこまれた百年以上前のスクラップブックなど、レオニーの親族をへてイサム・ノグチに継承されたため、日本での戦禍を免れ、義塾の所蔵となりました。(小澤ゆかり)

## 図書館の舞台ウラ

# あの手この手の資料メンテナンス

予約した本が届いたのでカウンターに受け取りに行ったら、ずいぶん古びていてがっかりすることはありませんか。図書館の本は多くの方が利用するため、「新品」と呼べる状態はつかの間です。傷んだり汚くなったものは買替を試みますが、絶版になって入手できないこともしばしば。そこで、未永く利用できるよう、スタッフがあの手この手でメンテナンスを行っています。

### 消しゴムかけ

返却された本を点検すると、時々本文に書き込みされていることがあります。手続きの際に気づかなかった時はスタッフが代わって消しゴムをかけます。ボールペンやマーカーで書かれたものはお手上げ! 買替えられなければ、泣く泣く表紙に「ご容赦ください」のメモを貼って書架に戻します。

### カバーをかける

背や表紙が取れかけたり、汚れてしまった本にはビニールカバーをかけます。専用の作成機を使うため、本とぴったりのサイズに作ることができます。ぴったりのカバーは、扱いやすいだけでなく背や表紙の歪みを整える補強の役割もあります。



### 修理する

背や表紙が緩んだり取れてしまった本には、和紙テープや糊を使って補強します。一般のテープや糊を使うと本が劣化してしまうので、図書館資料用の材料を使います。少ない材料でしっかりと補強するのが腕の見せどころです。

### 中性紙箱・中性紙封筒に入れる

長年の劣化によって紙自体が傷んだ場合はテープや糊では修理することができません。また古い本は、多少不便でもそのままの状態の後世に残したほうがよい、という視点も加わります。その場合は、本の傷みを抑えるために、中性紙の箱や封筒に収めます。一つ一つ本のサイズを測って手作りしています。



### カビ取り

地下書庫では梅雨時にカビが発生することがあります。発見したスタッフはエタノールスプレーを手に駆付け、カビを周囲にまき散らさないよう、そっと拭取ります。カビはクロス貼りの洋書を好むので、広範に及んでいない事を祈りつつ周辺の洋書をチェックします。



図書館の本は慶應義塾の知のバトン、返却カウンターに戻ったらしっかりメンテナンスして次の読者の手に渡したいと思います。

(閲覧担当)



\*弟子は今日合戦、師範自ら注釈を…

# 「古今和歌集序注」

首欠 二条為忠 享禄3年(1530)写 高さ25.2cm 卷子装 一軸 [132x@65@1]

小川 剛生 (文学部教授)

赤松彦五郎殿よ、和歌を詠みたいと？ それならば立派な師範に入門して、古今集をきちんと教えて貰わなければならぬ。憚りながら乃公、かの為家卿の玄孫。吉野の朝廷の歌道師範もしたのだ。ただちょっと時局を見誤って、いまはここにドサ、いや在国しているのだが。真殿、熱心だから、弟子に加えてやってもいいぞ。でもここで教えた内容、絶対に人に言ってはならぬ。歌道の神様の名にかけて洩らさないと言紙を出せ。なにこれから合戦？ 死ぬかも知れない？ 仕方ない、仮名序の注釈だけ書いてあげよう。特別サービスだぞ。…

くだけたやりとりで再現したが、本書は上のような事情によって、康安元年(1361)に成立した、古今集仮名序の注釈書である。実は冒頭部分が失われているため、門外不出を誓ったやりとりの詳細は不明であったが、近年紹介された東山御文庫蔵本(二条為忠古今集序注)は首尾完存し、比較して復原できる。すなわち藤原定家・為家の末裔である権中納言二条為忠(1311~73)が、播磨の守護大名として有名な赤松氏一門の武将で、摂津守護代であった彦五郎範実(範頭)に授けたものである。東山御文庫蔵本は転写本であり、本文としてはこの本が優るのである。

貴重書室・斯道文庫は古今集注釈書を長年蒐集しており、国内有数のコレクションとなっているが、この仮名序注は、そのうちでも内容・成立事情とも注意すべきものである。

構成は仮名序の本文を55段落に分け、それぞれ対応する先祖為家の注(いわゆる為家序抄)を2字下げで引用し、さらにその左に2字下げで為忠自身の見解を記す形式を取る。父祖の庭訓を重んじ、自説とは峻別する姿勢を示すものである。為忠自身の見解もオーソドックスなものであるが、「ならのみかど」を通説の文武天皇ではなく、聖武天皇としている点は独自のものである。

古今集は、あらゆる歌人にとって必須の聖典で、そこに収められた和歌の解釈はもとより、歌人の伝記、文字の音訓、アクセントまで通曉していなくてはならない。とくに「やまとうたは人の心をたねとして」で始まる仮名序は本邦最初の文学論で、文字通り金科玉条として尊ばれた。ところが、古今集は自分で勉強しても意味がなく、しかるべき師範から教えて貰う必要がある。なぜなら師範こそ貫之・俊成・定家といった、過去の偉大な歌人たちの説を正確に伝えている人だから。従ってそうした説を正しく授けられることが歌人となる階梯でもあった。これが古今伝授である。

後世には和歌の解釈とは関係ない珍説がもったいぶって授けられる秘儀と化すが、もともと古今集注釈書とは、このような伝授を前提とするテキストである。和歌を家業とする歌道師範家が確立した鎌倉時代以後、盛んに作成され、その数は他の古典作品を遥かに凌ぐ。師範の権威を保つためか、講義内容をまとめたノート(聞書)を作成し、師範の証明を受ける形式が多い。もちろん師範の所持する、既存の注釈書を与えたり、書写を許すこともある。

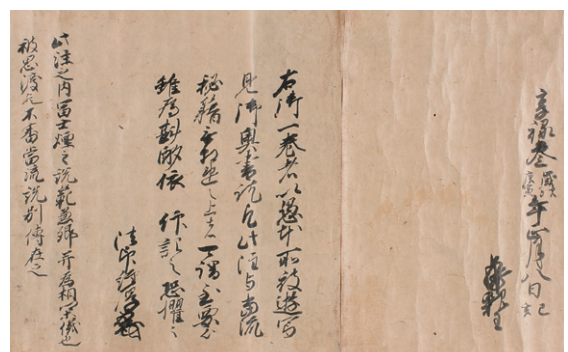
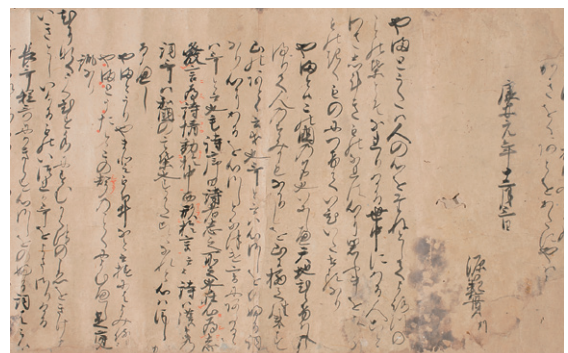
この世界で最も権威を誇ったのが定家・為家の子孫である御子左家、わけでもその嫡流二条家である。初期の注釈書は、多くこの二条家の説を受けたものであるし、末流の怪しいものでもしばしば定家や為家の名前を借りる。ただ、ここに触れた通り、師範自ら手を下して注釈書を著すことは珍しい。為忠序注の価値はまさにそこにある。為忠は若い時は歌才に富み嫡子にもなったが、南朝に仕えた経歴が祟って、京都歌壇では不遇を託ち、晩年は地方に滞在することが長かった。現地で物心両面で庇護してくれた赤松氏に門外不出の家説を授けたのである。

それにしても破格の好意というべきであるが、太平記によれば、当時、赤松氏は大名間の内訌によって室町幕府に離叛して、南朝に与っていた。赤松範実(赤松氏)は摂津より北上して京都を攻めている。この仮名序注を授けた康安元年12月3日は、まさにその合戦の日なのである。為忠は範実の陣中に居たのかも知れない。細川幽齋の田辺城籠城のエピソードは余りにも有名だが、これもまた武士と和歌とをめぐるとの挿話となり得るかも知れない。

その後、赤松範実は、摂津の興福寺莊園を押領して、越後国に配流となる。為忠にも子孫は居らず、15世紀初頭には二条家の血筋も断絶してしまう。しかし、歌道では二条家の古今集の説は歌道の正説として依然尊重され続けた。南北朝期の二条家門弟であった、歌僧頓阿とその子孫常光院流がこれを伝えて新たな歌壇の指導者となり、戦国乱世に突入する頃には、常光院流から出た法印経厚(1476~1544)という天台僧が多くの貴紳を門弟に擁していた。

この経厚は、どのような経路か、為忠の仮名序注を所持していた。主人でありパトロンでもある青蓮院門跡入道尊鎮親王(1504~50)に対して、享禄3年(1530)、仮名序を講釈した際に、懇願されたため、書写を許した。それがこの本なのである。尊鎮・経厚両人の自筆奥書によって以上の事情は明らかにされている。

門跡の命で製作された本であるから、斐紙を用いた豪華な卷子本となっている。経厚は「この注は我が流と相違無く至要である」と称賛しつつ、やや異なるところもあるので注意されたと、とわざわざ注記している。経厚も所詮門弟の流れに過ぎず、そのウィークポイントを意識していたからこそ、二条為忠作という仮名序注によりどこを求めたのかも知れない。歌道家の権威の大きさが知られよう。



# 山中資料センターへの資料移動 そして…雑誌の配置場所が変わります!

三田メディアセンターでは、長年にわたる書庫狭隘化のため、天板に乗せる、箱詰めして別置するなどの手段をとってきましたが、昨年100万冊収容可能な山中資料センター2号棟が完成したことで、三田キャンパス内に数年分のゆとりが生まれる可能性が見えてきました。

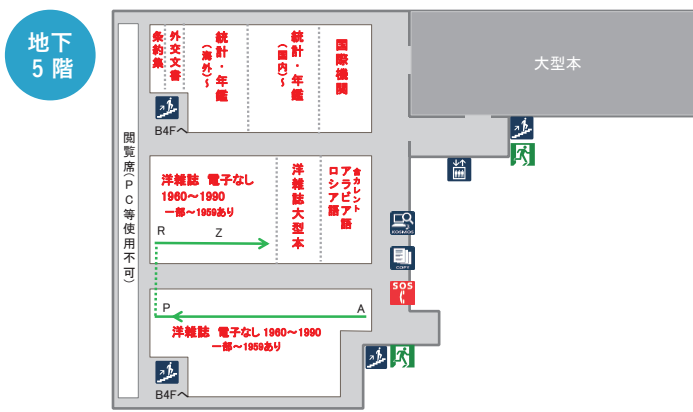
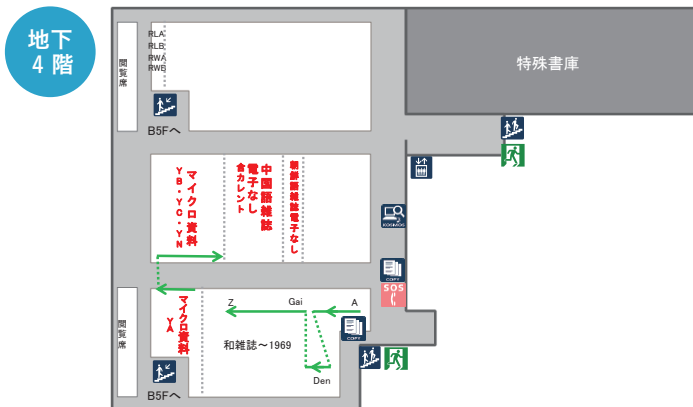
白楽サテライトライブラリーの約50万冊の資料移動に続き、今年は三田メディアセンターから、洋雑誌を中心に約13万冊の移動を行いました。電子ジャーナルの導入により利用が激減し、図書に比べると大型サイズのものが多く、書架占有率が高い洋雑誌は、真っ先に移動候補として挙がりました。全所蔵約8,000タイトル25万冊の洋雑誌を、電子ジャーナルでの利用が可能かどうかの調査から始め、利用可能な冊子にシールを貼る、書架計測をする、Book-IDをスキャンするなどの作業を約2年かけて実施しました。その結果、地下5階にある1960年～1990年までの洋雑誌3万冊、4階にある1991年～2010年までの洋雑誌4万冊、地下4階にある中国語、韓国語雑誌1万冊を

山中資料センター2号棟へ移動するに至りました。

日吉保存書庫にあった1959年以前の洋雑誌5万冊は、以前山中資料センター1号棟に置いていた時期もあることから、電子ジャーナルの有無にかかわらず山中資料センターへ移動しました。古い年代の洋雑誌をご希望の場合は複写物または現物を取り寄せてご利用いただけます。

これから2017年3月末までに、移動により捻出した約8万冊の空きスペースを地下4階にまとめるほか、雑誌の配置を大きく変え、コレクションごとに、できるだけわかりやすく再配置します。

「判例・法令」は、和・洋、すべての年代のものを4階に、「統計・年鑑」は、和・洋、1975年以降のものを3階、1974年以前のものを地下5階に配置します。また、地下4階の集密書架にある「大学紀要」と3階にある「慶應紀要」を4階フロアにまとめ、より利用しやすくします。このように、使いやすく配置することにより、多くの方々に冊子を手にとってもらえるよう願っています。



山中移転後再配置案

主な出来事 (2016.4-2016.9)

日・EUフレンドシップウィーク  
「EUの言語政策～多様性の中の統合～」を開催

三田メディアセンターに設置されているEU情報センターでは、毎年5月9日のヨーロッパ・デー（欧州連合の誕生日）を中心に、展示やEUクイズを中心としたイベント「日・EUフレンドシップウィーク」を開催しています。

2016年のテーマは「EUの言語政策～多様性の中の統合～」でした。5月18日から6月3日の間、図書館2階にてパネル展示を行い、「EUのことば」をテーマに、EUのモットーとなる“United in Diversity”（多様性の中の統合）や24の公用語を紹介し、多言語主義とそれともなう統合の過程について紹介しました。

またパネル展示と並行して、EU限定ハローキティストラップなどのオリジナルグッズがもらえるEUクイズも行い、今年は70名の方に参加していただきました。移民問題や日本でのG7サミット開催、さらにはイギリスのEU離脱など、EUへの注目が高まっているなか、今回の展示を通して、多様性を尊重し、加盟国間の相互理解を推し進めるEUの国境を越えた国際的な対応とその取り組みについて、関心や理解を深めていただけたのではないのでしょうか。



春の文献探索ツアー

春学期の図書館は、オリエンテーションで賑わいます。2016年も盛況で、特に人気のある「文献探索ツアー」には、約70ゼミ、900名近くの学部生、院生、教員に参加していただきました。

「文献探索ツアー」はKOSMOSやデータベースの使い方を説明する講義部分と、図書館内を実際に歩きながら資料の配置を紹介するツアー部分で構成されています。参加者の研究分野に合わせて、内容を準備するオンデマンド型のオリエンテーションです。三田に来たばかりの2・3年生は、電動書架のある新館地下4階や旧図書館など、ふだんあまり使わない場所で盛り上がるようです。「文献探索ツアー」への参加を機に、図書館の効果的な使い方を知り、今後の研究や学習に活かしてもらえればと思います。



図書館オリエンテーションは秋学期も開催しています。「文献探索ツアー」以外に、データベースの実習ができる「データベース体験講座」、剽窃を避け適切な引用をするための基礎を学ぶ「引用・参考文献の基礎講座」など、より発展的な内容のものも準備しています。お気軽にレファレンス担当までご相談ください。

お子さまを連れて  
図書館を利用することが  
できるようになりました

子育て中の学生・教員のみなさまの学習・研究活動を支援するため、2016年度よりお子さまを連れて図書館をご利用いただけるよう、入館規則を変更しました。小さな来館者を温かい眼差しで見守っていただけるとありがたく思います。



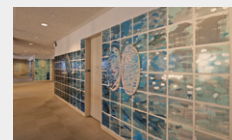
日曜開館2年目、秋から冬に変更します

日曜開館は、利用者の皆様へのアンケートのご要望を受ける形で2015年度から開始しました。実施後、再びアンケートを通じてご意見をうかがったところ、時期について1月中の希望が多かったため、今年度は12月と1月の日祝日のうちの8日(12/4、11、23、25、1/9、15、22、29)を開館することにしました。秋学期試験の勉強や卒論・修論の執筆にどうぞご来館ください。



■表紙の絵画について

図書館新館2階エレベーターホールを上ると爽やかなブルーの絵画が壁一面に広がっています。Jennifer Bartlettによって1980年に作成された「At Sea Japan」という作品です。510枚のエナメル・プレートの「水面」に、12枚の楕円形のカンヴァスに油彩で着色した「泳いでいるひと」が取り付けられています。この壁画を背景に「くじら」も気持ちよさそうに泳いでいます。



編集後記

早いもので、「知識の花弁」も4回目の秋を迎えました。私達編集委員が本誌の編集に思案していた夏、世の中はポケモンGOやオリンピックに湧き上がっていました。そんな夏も終わりこの号が発刊される頃、学生のみなさんは秋の気配を

感じながらたくさんの本を手にとって勉学に励んでいることでしょう。私達スタッフ一同は、貸出する本・返却された本に気を配り、あの手この手でメンテナンスをし、気持ちよく利用して頂けるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

編集・発行 慶應義塾大学 三田メディアセンター  
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45  
TEL 03-5427-1625 FAX 03-5484-7780  
発行日 平成28年10月1日  
印刷 有限会社 梅沢印刷所  
<http://www.mita.lib.keio.ac.jp>  
Twitter: @Keio\_MitaLib